

動き出した中国の4G市場

株式会社クララオンライン
コンサルティングチーム

中国が4Gのサービス開始に向けカウントダウンを始めている。先日も中国移動が大規模な4G対応スマートフォンの入札を実施し、通信キャリアへのライセンス発行も間もなくと言われる。本格的な普及にはカバーエリアの拡大や適切な通信料金設定など様々な困難が待ち受けるが、4Gを体験したユーザーの評価は上々であることから、コンテンツ業界を中心に迎え来る新時代への期待が高まっている。

1. 間もなくライセンス発給か

中国ではまだ正式に4Gの商用サービスが始まっていない。現在は各地で商用化に向けた実証実験が進められている段階で、ごくわずかのテストユーザーがいるだけだ。

中国が採用を検討する4G規格は2種類で、中国移動(チャイナモバイル)は「TD-LTE」(3Gでは「TD-SCDMA」を採用)、中国電信(チャイナテレコム)と中国聯通(チャイナユニコム)は「FDD-LTE」(3Gではそれぞれ「CDMA2000」、「WCDMA」を採用)を採用する意向が伝えられている。「TD-LTE」は中国政府が推進する4G規格で、中国移動、華為(HUAWEI)、中興通迅(ZTE)、大唐電信といった国内の通信事業者を中心に開発が進められている。技術的には「Softbank4G」が採用するAXGPとほぼ同様だ。一方の「FDD-LTE」はアメリカの通信会社をはじめ、日本ではNTTドコモとauが採用している。

中国政府は4G通信ライセンスの発給について明言していないが、キャリア各社は端末や通信設備のサプライヤー選定を進めており、業界では早ければ5月中にも発給されるとの見方がある。なお中国電信は、「FDD-LTE」のライセンス取得が難しい場合は、中国移動と共同で「TD-LTE」の普及に注力するとの考えを発表している。

2. 中国移动が 4G 端末の調達に着手

中国移动は2013年5月3日までに、他社に先駆けて4G端末の入札を実施している。伝えられたところによれば、今回選定されたのは華為、中興通訊、サムスンから各2機種と、無線科技のスマートフォン「酷派（クールパッド）」1機種で、正式な受注価格と台数は6月にも発表される。同社の計画では、2013年だけでスマートフォンやモバイルデータ通信端末など100万台以上を調達するという。

またキャリア3社は、4Gを含むネットワークのアップグレードに2013年だけで合計3450億元（約5兆7000億円）を支出する計画で、中国移动は4G基地局20万カ所の整備に417億元（約6800億円）を投じると発表している。すでに4G基地局などの通信インフラ設備についてもサプライヤーの選定が進められており、国内メーカーで欧州でも多くの契約を獲得した実績を持つ華為や中興通訊が有利とされる。世界の通信設備市場では、スウェーデンのエリクソンが約35%のシェアを握るほか、華為が約17%、NSN（ノキアシーメンスネットワークス）が約15%、アルカテル・ルーセントが約12%のシェアを持つが、中国市場においては華為と中興通訊が牛耳る形で、残りのわずかなパイを海外メーカーが奪い合う構図になることが予想される。中国光大銀行を傘下に抱える光大集団のシンクタンク、光台資料研究有限公司のアナリストは、中国移动の4G機器調達計画のうち70%ほどを中国メーカーが獲得すると見込む。



中国移动通信 CHINA MOBILE
移动信息专家

4G LTE

未来 已来

中国移动开启4G时代

A 什么是4G和TD-LTE?
4G指第四代移动通信网络技术；TD-LTE是由中国移动、华为、中兴等中国业者自主研发的4G标准，具有高速度、低延时等特点。了解4G

B 高速无线上网
通过使用中国移动提供的TD-LTE终端设备，用户可体验到TD-LTE网络提供的高速无线网络，峰值速率达到3G网络20倍以上。

C 高清视频点播
TD-LTE技术开创了无线高清视频点播（VOD）的新时代，用户只需配备TD-LTE终端，就可畅享高质量的流媒体服务。

D 高清视频监控
通过中国移动TD-LTE网络和TD-LTE高清网络摄像机，能够很好地满足道路交通视频监控、工地监控等项目管理的需要。

E 便捷的智能生活
4G网络将使我们不仅可以随时随地通信，更可以双向下载、传递资料、图画、影像，甚至提供许多难以想象的应用，人们的生活更加便捷与智能。

F 即摄即传技术
利用TD-LTE即摄即传技术，仅需在现场摄像机上装好通信模块，利用TD-LTE网络便可将拍摄的影像实时传回后方。在2011年深圳大运会已获得成功实践。

移动4G 快速度慢生活

中国移动は鳳凰網に4Gの特設ページを開設 <http://huanan.ifeng.com/zhuanli/bizhuanti/mobile4g/>

3. 進む 4G 実証実験

率先して 4G の取り組みを進める中国移動は、現在までに上海、杭州、南京、広州、深セン、アモイの 6 都市で試験用ネットワークを構築しており、続いて北京、天津、青島、寧波、成都、福州、瀋陽、無錫など 10 都市についても市内の 30~50%程度をカバーするネットワークを構築する計画を進めている。深センと香港の間では 4G のローミングテストが完了したほか、杭州、温州、寧波の 3 都市間でも 4G のローミングができるようになっている。特に杭州では、地下鉄 1 号線の全線で 4G が利用できるほか、市内にある 2400 力所余りの基地局が人口にして 500 万人以上、面積では 500 平方キロメートル以上の範囲をカバーしている。現在までに各都市で行われた試験結果はまずまず良好で、テストユーザーからは動画のダウンロードの速さに驚きの声が上がっている。



杭州市では路線バスの中で WiFi を通じて 4G の速度が体験できる (写真はいずれも新華網より)

4. 普及に期待高まる

中国電信や中国聯通は比較的ゆっくりと 4G の導入準備を進めているが、ライセンスは 3 社同時に発行される見通しだ。現在のところ、どのキャリアがどのようなライセンスを取得するかは伝えられていないが、4G がスタートすれば iPhone を扱う中国電信と中国聯通が有利になるため、中国移動が焦りから 4G エリアをいち早く拡大しているとの見方も出ている。

しかし中国のスマートフォンの約 8 割は Android で、1000 元以下の機種も豊富に出回っているのが実情だ。さらにスマートフォンユーザーがよく利用する機能はインスタ



ントメッセージ、音楽、カメラ、ゲームが中心で、動画や映画といった通信量の多いコンテンツの利用は少ない上、定額料金プランがないため音楽やゲームは自宅などでWiFiを使ってダウンロードすることが定着している。4Gの通信料金設定によっては、短期間で爆発的に4G利用者が増えることはないとの見方が強い。

他方、4Gの普及を心待ちにしている業界もある。コンテンツの分野では、動画サイトの土豆網などが視聴回数の増加を見込んでいるほか、地図やナビゲーションなどのサービスもユーザーの拡大を狙う。スマートフォン向けゲームは3Gの通信事情を考慮して最低限の通信で済むよう工夫されているが、4Gになれば通信の多い海外製ゲームの中国展開が今よりも容易になる可能性が指摘されるが、いずれにせよ4Gの普及には料金設定が大きなキーポイントとなりそうだ。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンラインコンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は2013年5月13日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンラインコンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776